

古くて新しい鉄へのこだわり

鋼板・帯鋼の専門店

日本磨帯鋼株式会社

2018 年度 環境経営レポート

(2018年 4月～2019年 3月)



ホームページアドレス: <http://www.migakiobikou.co.jp/>

メールアドレス: sugimoto@migakiobikou.co.jp

作成日：2019年5月30日

更新日：

□ごあいさつ

温暖化等の地球環境の悪化を防止するために一企業としてどう取り組んでいくのか！明確な環境方針のもと、全社一丸となって無駄な資源やエネルギーの消費を抑え、ゴミの排出を減らすことに最善を尽くします。またエコアクション21を通して今後も更なる環境活動を行なっていく予定です。

経営理念

1. お客様第一主義に徹します。

私達はお客様のニーズを的確に捉えた質の高い商品とサービスを提供します。

2. 社会にとって存在価値のある会社になります。

私達は創造的かつ独創的な商品とサービスの提供を通して、物づくり、人づくりに貢献します。

3. 人間性豊かな、温かみのある会社になります。

私達は社員一人一人が自分の能力を最大限発揮し、本当に会社の一員として、役にたっているという事を実感できる会社づくりをめざします。

日本磨帯鋼株式会社

代表取締役 杉本 幸久

環境経営方針

<環境理念>

私たちは、ますます深刻化する地球環境悪化を防ぐために、企業の活動(鋼材販売活動)において、必要以上のエネルギーの消費をなくし、省エネ、節水活動、廃棄物の少量化に取り組めます。又、地球環境にやさしい商品の取り扱いを増やすことによって環境負荷の低減を図り、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組めます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応)

- ・電力(工場、事務所)
- ・自動車燃料(営業車)

②廃棄物の削減及び再資源化の推進(循環型社会への対応)

- ・一般廃棄物(可燃ごみ)

③排水量の削減(水資源の保全)

- ・一般水道水

④磨帯鋼の環境用途の提案(製品・サービスへの環境配慮)

- ・振動騒音防止材(隙間ゲージ)などへの利用
- ・環境教育への利用
- ・ネット販売でのPR

⑤エコ商品の購入(グリーン購入)

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：2008年10月1日

改定日：2012年5月11日

代表取締役 杉本幸久

□登録事業所の概要 (全社が認証取得範囲)

- (1) 事業所名及び代表者名
日本磨帯鋼株式会社
代表取締役 杉本幸久
- (2) 所在地
本社：大阪市東成区神路3丁目2番21号
資材倉庫：大阪市東成区神路4丁目10番22号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 高士京子 TEL：06-6971-5531

- (4) 事業内容 (認証・登録の範囲)
鋼板・帯鋼の加工販売

【磨帯鋼の環境性能】
磨帯鋼は産業機械、鉄道車両などの部品に加工され軽量化に貢献している。また、厚さの制度が良いことからスパーサーに利用され

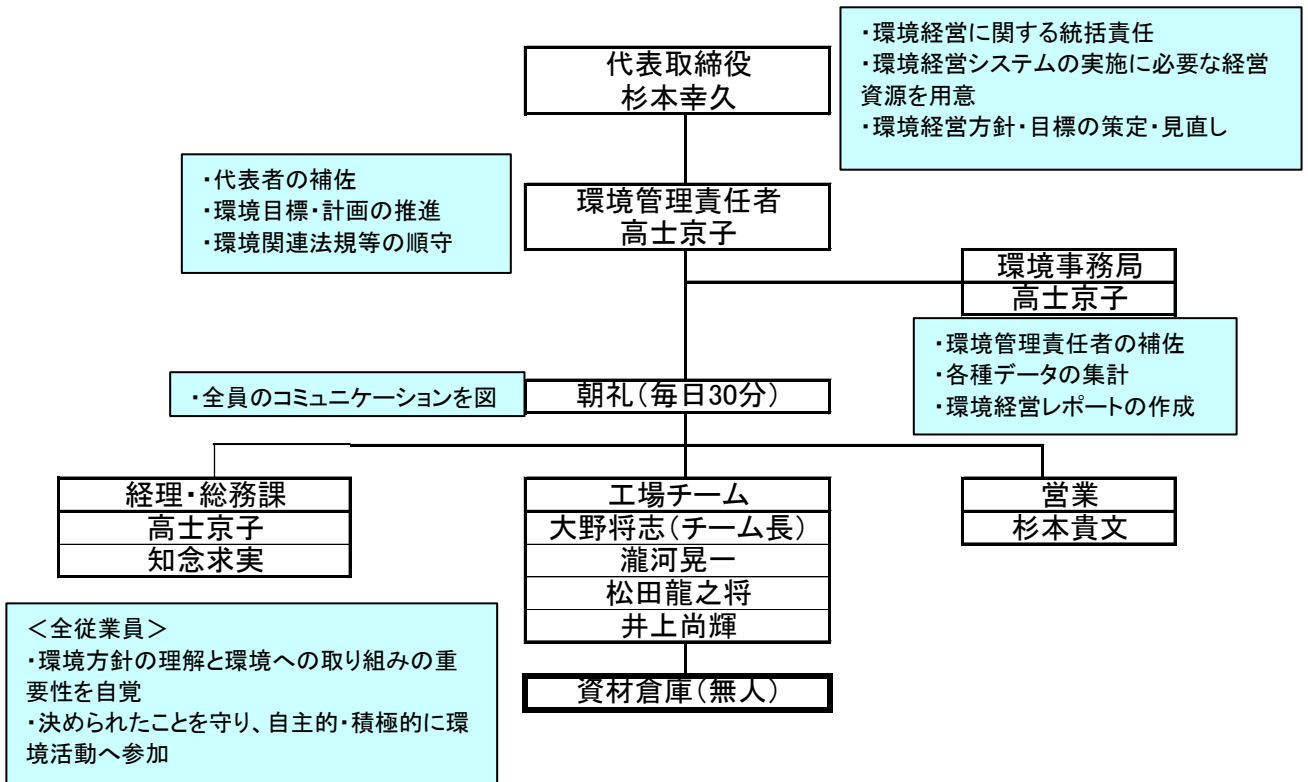
- (5) 事業の規模
製品出荷額 2.7億円
主要製品生産量 1200トン

	本社	資材倉庫
従業員	7名	無人
敷地面積	246㎡	168㎡

- (6) 事業年度 4月～3月

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2018年4月1日

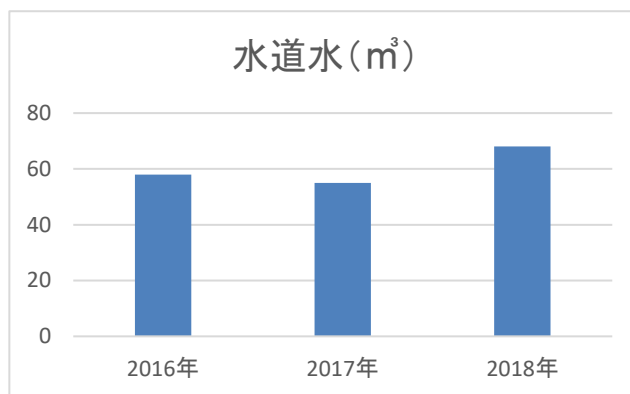
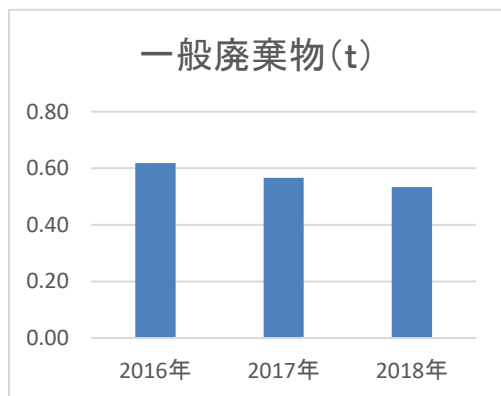
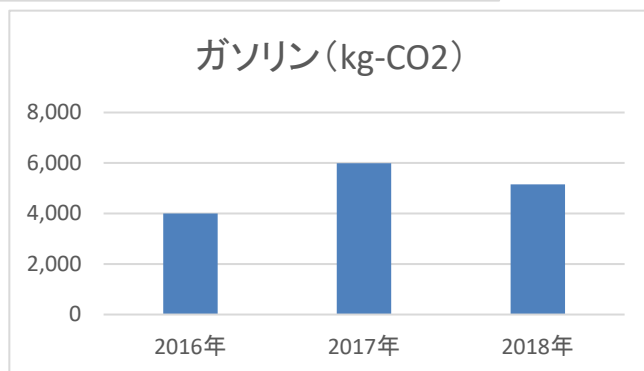
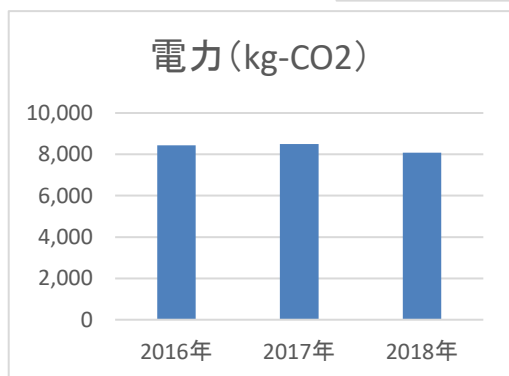
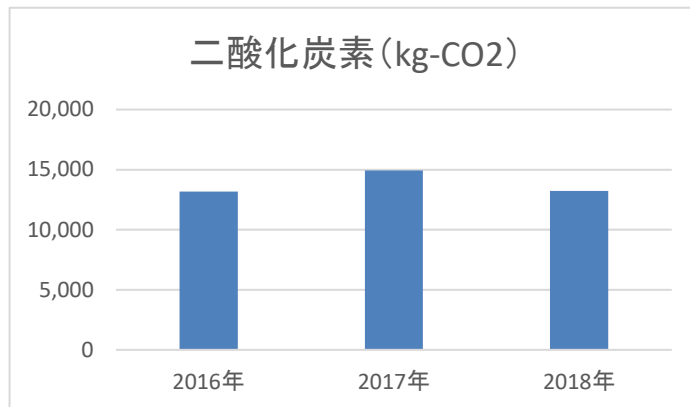


□主な環境負荷の実績

項目	単位	2016年	2017年	2018年
二酸化炭素排出量 (対象：エネルギー総量)	kg-CO ₂	13,180	14,946	13,233
一般廃棄物排出量	t	0.62	0.57	0.53
総排水量	m ³	58	55	68

(注) 産業廃棄物としての排出はない。

グラフで見るCO₂・廃棄物・水道水の削減(増加)状況



□環境目標及びその実績（当初計画）

項目	年度	基準値 (基準年度)	2018		評価	2019 (目標)	2020 (目標)
			(目標)	(実績)			
電力の 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	8,501	8,416	8,076	○	8,331	8,246
	基準年度比	2017年度	99%	95%		98%	97%
自動車燃料の 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	5,988	5,928	5,156	○	5,868	5,808
	基準年度比	2017年度	99%	86%		98%	97%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	14,489	14,344	13,233	○	14,199	14,054
一般廃棄物の削減	kg	648	616	534	○	616	616
	基準年度比	2015	95%	82%		95%	95%
産業廃棄物の削減	kg	該当なし	-	-		-	-
	基準年度比						
水道水の削減	m ³	63	58	68	×	58	58
	基準年度比	2015	92%	108%		92%	92%
エコ製品の購入	%	活動目標	50%	68%	○	50%	50%
磨帯鋼の環境への貢献		活動目標	ホームページでのPR、帯鋼の用途の拡大				

- ・二酸化炭素削減目標には都市ガスは含まず
- ・電力のCO2換算係数は0.514kg-CO2/kWhを使用

□環境活動の取り組み計画と評価

4月～3月までの目標とその実績について、その評価を行った

取り組み計画	活動達成状況		次年度計画	評価（結果と今後の方向）
	評価	備考		
電力の削減	数値目標	達成		
窓の遮光・断熱	○		継続	通期では前年比約5.0%の電力使用量削減となった。 空調の電力使用量が気象条件に影響を受ける為、夏季は若干少ない削減量で推移したが、工場、事務所とも「不使用時の電源オフ」を徹底する事により通期での電力使用量の削減につながったと考えられる。来期も「不使用時の電源オフ」を継続して取り組んでいく。
不要照明の消灯	○		継続	
3Sによる時間短縮	○		継続	
設備の空運転防止	○		継続	
工程ロス削減（伝達の徹底）	○		継続	
冷房28℃ 暖房20℃	×		継続	
書類作成ミス防止	○		継続	
自動車燃料の削減	数値目標	達成		
アイドリングストップ	○		継続	通期では前年比約13.9%の燃料使用量削減となった。 計画的な営業回りや効率的な集荷・配達作業、車内空調の使用削減を継続した結果、ガソリン使用量を大きく削減することに成功した。 今後も継続して上記活動に取り組むとともに、ドライバーのエコ意識を更に高め、継続的な燃料使用量の削減に繋げたい。
エコドライブ	○		継続	
冷暖房の控え目使用	○		継続	
営業ルートの効率化	△			
一般廃棄物の削減	数値目標	達成		
裏紙使用	○		継続	通期では前年比約17.6%のゴミ排出量削減となった。 事務所の紙ゴミ分別の徹底、工場の廃資材削減によりゴミ排出量の大幅な削減に成功した。 今後も上記活動の継続に努めたい。
ミスコピーの防止	○		継続	
大阪市の紙の分別規制に対応	○		継続	
帳票見直しによる印刷物の削減	○		継続	
両面印刷用プリンタ使用	○		継続	
マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動の推進	○		継続	
産業廃棄物の削減				現在は発生していない。
水道水の削減	数値目標	未達成		
節水呼びかけ	○		継続	水の使用量は若干の増減は見られるものの、ほぼ基準年と変わらず低位で安定化している。 引き続き節水意識を維持していきたい。
水の出しっぱなしの禁止	○		継続	

エコ製品の購入 電気製品、自動車等環境の良いものを選択 文房具などの購入	○ ○	達成	継続 継続	社内で使用する文房具や什器・備品はエコ製品が増えた。エコ製品の使用を継続。同時にムダ使用を排除するよう指示
磨帯鋼の環境への貢献				
社内検査の基準づくり	○		継続	昨年とほぼ同数の新規顧客成約件数となった(94→97件)。安定的に小口案件の新規問い合わせはあるが、定期的な注文には繋がっていない。新規顧客を効率的に訪問し、販売数量の増加に繋げたい。
梱包仕様の検討	○			
顧客ニーズの把握	○			
ホームページの改善(見直し)	○		継続	
ネット販売額調査	○		継続	
ホームページからの新規顧客数の集計	○		継続	

□環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物 産業廃棄物
騒音・振動規制法	シャーリング機・コンプレッサー
消防法	スプリンクラー、警報機、消火器
顧客要求事項	素材の有害物質の含有禁止・納期厳守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□緊急事態の想定訓練

緊急事態の想定：	火災
日 時	平成30年2月5日
内 容	工場内で包装紙にタバコの火が燃え移って火災発生したと想定。 ①発見者大野将志が大声で「火事だ」と周りの人に告げた。 ②声を聞いた瀧川晃一は社内全員に告げた。 ③火災連絡を受けた杉本は消化活動をする者を除いて非難させた。 ④男性社員は慌てず消火栓で消化活動を行った。 ⑤避難した高土は消防署に119番する。 ⑥大野将志は消防署到着後現場に案内する
評価	手順書の変更：なし
試行訓練の様子	新工場に移転して、4回目の訓練となりスムーズに行えた。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

新工場に移転してから4年間で築いた基盤をもとに、2018年度は生産性と環境負荷低減がともに向上した一年となりました。昨年更新された機械を安定的に稼働させる事ができ、3S活動と連携したエコ活動により経費の削減や職場環境の改善に繋げる事が出来ました。今後もエコ意識を社内により深く浸透させることで、全社一丸となって継続的な改善に取り組み、積極的に環境経営を推進致します。

変更の必要性

環境経営方針：変更なし

環境経営目標：実績に合わせて見直す

実施体制他：変更なし

□エコへの取り組み



工場の照明に省エネ型を設



オートシャッターによる省エネ



事務所の照明はLE



トイレの使用も省エネ



3Sの啓蒙活動



3Sでエコ



防震用クッションマ



防音壁